

—第1回— 美濃国守護土岐氏 最後の居城 大桑城跡調査報告

山県市には、今から約480年前の戦国時代に、美濃国守護土岐氏によって築かれた山城「大桑城跡」があり、現在でも、曲輪、石垣、竪堀などの痕跡を見ることが出来ます。この大桑城跡の魅力は市内外に広くPRし、本市の貴重な歴史遺産を次世代に継承するため、今年度から国史跡指定を目指した調査を開始しています。

ここでは、調査で分かってきたことを紹介します。

国生涯学習課文化財調査室

Tel 32-9008

ID 17167



【戦国時代の石垣を約40か所で確認！】

大桑城跡の石垣は、先行研究により約10か所で確認されていましたが、今回新たに約30か所で発見し、合わせて約40か所になりました。

大桑城を整備した最後の守護土岐頼芸は、土の城が主流であったとされるこの時代に、新しい石垣の技術を取り入れ、守護の拠点にふさわしい城づくりを行ったと考えられます。

大河ドラマ「麒麟がくる」では、鷹の画ばかり描き、斎藤道三のあやつり人形のように描写され、弱い守護としてイメージが強い土岐氏ですが、今回の発見は、その人物像について、再考を迫る重要なものになるかもしれません。

【用語】

守護

幕府からの命により国ごとに配置され、行政や軍事などの職務を行い国を治めた。

曲輪

斜面を削る、土を盛るなどして人工的に造られた平坦地。

竪堀

斜面の方向に掘られた堀。敵の横の移動を防ぐ。



【石垣を見学することが出来ます】

大桑城跡の登山道沿いに、「石垣見学ポイント」を設置しました。

また、登山道の入り口にある案内ボックスには、「大桑城跡石垣見学マップ」が入っています。ぜひ、当時の石垣を楽しみながら登山してみませんか。

なお、石垣を見学する際は、崩落の可能性があるため、石材に足を掛けないでください。また、登山道沿い以外の石垣については、アクセスする道がなく危険なため、山の中に入って探さないようお願いいたします。

編集後記

今月は、消毒ボランティアを取材しました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、学校では毎日消毒作業が行われています。この作業は教職員の手で行われており、通常業務に加え校舎内をくまなく消毒する作業は、大きな負担となっています。そんな中、地域のボランティアによる消毒作業が始まりました。コロナ禍により当たり前の生活が変わりつつある今、地域の助け合いがとても大切だと改めて感じました。

（Y）
今月は、大桑城跡で戦国時代の石垣が新たに30か所で発見されたことを受け、報道機関向けの説明会に同行しました。私は、小学生の頃から考古学に興味を持ち、よく現場説明会に行っていたので、今回も楽しみにしていました。石垣は、そのまま当時の姿を残している訳ではなく、残っている一部分から戦国の時代を想像することになります。その想像する時間こそが考古学の醍醐味だと思います。発掘調査はまだ始まったばかりです。今後のさらなる発見に期待したいですね。

広報
山県

Kouhou
YAMAGATA

発行 山県市
〒501-2192
岐阜県山県市高木1000-1

編集 企画財政課
Tel 0581-22-6825
Fax 0581-27-2075

URL <https://www.city.yamagata.gifu.jp/>
E-mail info@city.gifu-yamagata.lg.jp

VEGETABLE
OIL INK
大豆油を含む植物油を使用した
インキで印刷されています。

UD
FONT
by MORISAWA